

紫式部とその時代

NHK大河ドラマ「光る君へ」がスタートしました。『源氏物語』の作者、紫式部の生涯を描く作品です。史料が乏しく、生年も没年も本名もわかっていないという紫式部という女性と、彼女が生きた時代を、本を通して少し覗いてみませんか。

紫式部に迫る

『紫式部ひとり語り』

(山本淳子／[著] KADOKAWA 2020.2)

紫式部研究の第一人者が、紫式部自身の手による『紫式部日記』と『紫式部集』を始めとした史料によって再構成した紫式部の生涯を、「紫式部本人が語る」という形式を使って記した本です。

「容赦ない世の現実、それに縛られた我が身。しかし心は、何も縛られずに生きることができると、紫式部は言っています。」(あとがきより)

平安貴族の世界に迫る

『平安貴族』

(橋本義彦／著 平凡社 2020.5)

源氏物語の舞台ともなった貴族の世界。生活・政治のあり方、太政大臣・女院・里内裏の変遷など、その実態を史料から丁寧に読み解いています。

『有職装束大全』

(八條忠基／著 平凡社 2018.6)

ドラマの舞台である平安貴族の世界の一つの魅力でもあるのが、貴族たちがまとっている装束。この本は、朝廷・公家社会における服装「有職装束」を豊富な写真とイラストで紹介しています。2019年にTwitter(現・エックス)に「ヤベェ本、絵描きなど全創作者にオススメ」として投稿され話題を呼びました。

『源氏物語』に迫る

『源氏物語の世界』

(中村真一郎／著 新潮社 2023.5)

千年の昔に書かれた「源氏物語」。宮廷ゴシップ、恋愛模様、権力闘争…ほの暗い御簾の陰に潜む人間ドラマと、失意と孤独を抱えた作者・紫式部その人の内奥に迫っています。また、同時期の傑作も併せ論じ、古典を読む悦びが語りつくされています。

「私の観るところでは、日本の文化とは平安文化であり、その以前の時代はそれを準備し、それ以後の時代はそれの様ざまの変形である。(中略)だから、私たちは王朝を学ぶことによって、日本そのものを学ぶことになる」(『王朝文学と現代』より)

第16回

書名でしりとり

書名の最後の1字で次の本へつなげていく企画、第16回の文字は前回の書名から「し」です。

『死ぬ瞬間 死とその過程について』

(E・キューブラー・ロス／著 鈴木晶／訳 読売新聞社 1998.4)

「否認と孤立」「怒り」「取り引き」「抑鬱」そして「受容」。

末期患者との対話を通じて、死へといたる人々の心の動きを研究した本作には、人間の尊厳に対する確かな敬意があります。著者のロスはその後、死後の生や輪廻転生を信じるようになり、ある種の支持者と拒否反応を生み出しましたが、本著が偉大な作品であることは揺らがありません。

ちらっと

Chiratto
Vol.45

2024年2月-2024年3月号

特集1

紫式部とその時代

特集2

全館統一展示
「2023年を振り返って」

連載

書名でしりとり

お知らせ

西東京市図書館からのお知らせ
FM西東京で紹介した本

冬の全館統一展示

2023年をふり返って

思い返せば2023年もいろいろなことがありました。
良かったこと、良くなかったこと、悲しかったこと、嬉しかったこと…
図書館の本と共に2023年をふり返ってみませんか？
2024年も良い一年となりますように。



『君たちはどう生きるか』

吉野源三郎／著 岩波書店 1982.11

ISBN:4-00-331581-2

宮崎駿の脚本・監督による長編作品は約10年ぶりでした。タイトルは由来しているものの原作ではない別作品ですが、長年読み継がれてきた名作なので一読の価値あります。



『1985猛虎がひとつになった年』

鷲田康／著 文藝春秋 2015.1

ISBN:978-4-16-008214-4

2023年の流行アワードにも選ばれた「アレ(A・R・E)」38年ぶりに日本一に輝いたこともあり「アレのアレ」とも呼ばれました。その当時を紐解いてはいかがでしょうか？



『もっと知りたい!大谷翔平-SHO-TIME観戦ガイド-』

福島良一／著 小学館 2023.6

ISBN:978-4-09-825450-7

新年早々のWBCから始まった2023年の大谷イヤー。計11タイトルを獲得し、史上最高額でドジャースへ移籍したことも世界中で話題を呼びました。愛犬の「デコピン」とのツーショット写真もお互い幸せそうな笑顔で可愛かったですね。



『ローマ文明』

ピエール・グリマル／著 桐村泰次／訳 東京堂出版 2015.11

ISBN:978-4-8460-0831-4

門外不出だったヴィーナスと約2mの巨大な頭部や足といった彫刻が見どころだった「古代ローマ展」が開催されました。長大な歴史を辿る美術史に思いを馳せた展示で知見を深めた上で読むと更に解像度が上がります。



『命に恋して-さよなら「ムツゴロウとゆかいな仲間たち」-』

畑正憲／著 フジテレビ出版 2001.3

ISBN:4-594-03107-2

意外にも破天荒な人生を歩んできたムツゴロウさんこと畑正憲。TVシリーズ終了を機に記されましたが、内容としては彼の半生を回顧録として綴った名著です。ちなみに彼の肩書は「動物研究家」でもあり「小説家・エッセイスト」でもあり「プロ雀士」でもあります。人間への愛にも富んだ魂の執筆は必見です。



特別整理休館のお知らせ

以下の日程で、各館順次休館いたします。
ご不便をおかけいたしますがご理解ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

2024/2/6(火)～8(木):芝久保

2/27(火)～29(木):中央

3/5(火)～7(木):柳沢

3/12(火)～14(木):谷戸

FM西東京で紹介した本

『REAPPRAISAL-最先端脳科学が導く不安や恐怖を和らげる方法-』
(内田舞／著、実業之日本社、2023.10)

ネガティブな感情の背景にはなにがあるのか。嫌な感情を覚えた際にそれをできるだけ良い感情に変えていく、科学的根拠のある心理療法「リアブレイザル(再評価)」について解説した一冊。

他人と関わる以上感情は切り離せません。イライラしたり怒ったり、誰かを妬ましく思ったり、自分を承認されたいという感情は、それ自体自然なことですが、一方でその感情に振り回されると自分自身がとても辛い。自分の感情や他人とうまく付き合っていくために、ぜひこの「リアブレイザル」を知って役立ててください。

『M-1はじめました。』
(谷良一／著、東洋経済新報社、2023.11)

年末の風物詩となったM-1。そもそもM-1はどのような経緯で始まったのでしょうか？なぜ10年で一度終わってしまったのでしょうか？

仕掛人に島田紳助が関わっていたことをご存知の方は多いかもしれませんが、事の発端は著者である谷良一氏の奮闘によるものです。今こそ漫才ブームとなつて久しいですが、始まるの2001年当時は、お笑い番組を作ることには積極的な局はあまりありませんでした。

M-1という栄光の裏側にあった、泥臭さを語り尽くした書籍です。

発行:西東京市図書館

<http://www.library.city.nishitokyo.lg.jp>